

平成 23 年度 宇和島城保存整備事業

式部丸跡発掘調査 現地説明会資料

【調査期間】平成 20 年～平成 23 年 ※断続的に実施

【調査場所・発掘面積／対象面積】宇和島市丸之内 1・350 m²／2700 m²

【調査目的】公開のための遺構（虎口・道・石垣）確認調査

【調査成果】

- (1) 虎口（3 区）⇒新たな石垣（No. 186）を確認・石段及びその痕跡の確認・側溝及びピット（橋？）の確認・石垣の崩落要因となった谷状の地形の確認
- (2) 道（2 区・代右衛門丸下）⇒2～3 面の遺構面を確認
- (3) 石垣（2 区）⇒No. 43 の石垣については、崩壊と修理の痕跡を確認、石垣を築きあげなら、道の部分を造成させていたことが判明。構造から慶長以前のものと推定。No. 42 の石垣については、下部に古層の石垣（慶長以前か）を確認

【今後の予定】

今冬から石垣修理（No. 43・47・91～92・186 の 4 カ所、約 60 m²※立面積）や道の整備に着手、来年度に完了、一般公開の予定。

【式部丸跡について】

上り立ち門からの搦手道筋からすると代右衛門丸とともに最前線の曲輪となります。代右衛門丸については、3つの矢倉（代右衛門矢倉・南角矢倉）と門（代右衛門丸門）があり、まだ本格的な発掘調査は実施できておりませんが、それらの礎石の遺存状況はある程度視認できます。しかし、式部丸には門も櫓も絵図にはなく、井戸と塀しかなく、防御機能は低いといえます。また城内でも井戸丸と並んで、非常に小規模な郭でもあります。

【気になる史実※式部丸に限定されてないものも含む】

◎藤堂高虎の修築：慶長元（1596）年～慶長 6（1601）年の大修築

藤堂高虎の改修：大坂夏の陣に伴う改修（慶長 19（1614）年）

◎武家諸法度の発令：元和元（1615）年 ※寛永 12（1635）年改訂

◎山崎式部の在城：寛永 15（1638）年から万治 2（1659）年まで代右衛門丸に配される

伊達秀宗（初代）の修復：地震災害（慶安 2（1649）年）の修復（慶安 3（1650）年）

伊達宗利（2 代）の大改修：寛文 4（1664）年～寛文 11（1671）年

伊達宗賛（3 代）の修理：地震災害（宝永 4（1707）年）の修復（宝永 5（1708）年）

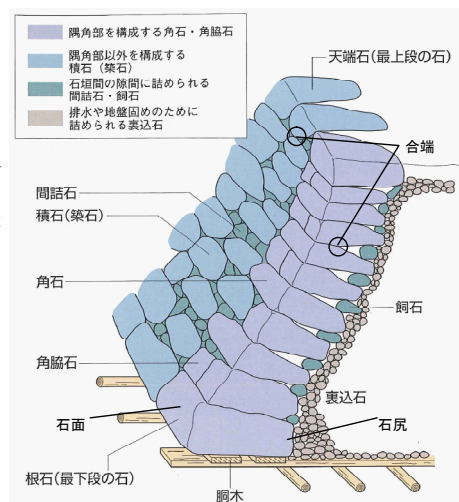
伊達村年（4 代）の修理：長雨災害（享保 6（1721）年）による享保 7（1722）年の修復

◎伊達宗城（8 代）の修復：

嘉永 4（1851）年の代右衛門丸石垣修理の記録（～数百年ヲ経シ石垣故～）

地震災害（安政元（1854）年）の修復（安政 4（1857）年伺い）、櫓の改修記録（安政 3（1856）年）

地震災害（安政 4（1857）年）代右衛門矢倉下石垣の損壊



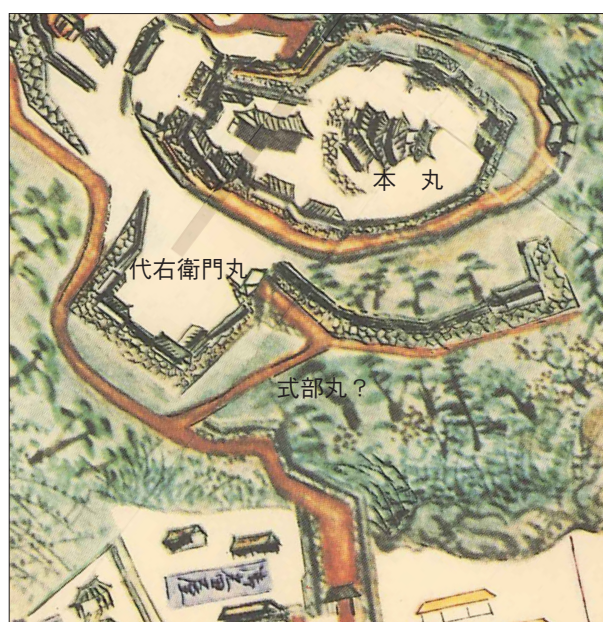
石垣の構造模式図



① 宇和島城絵図 部分 正徳元(1711)年(公益財団法人宇和島伊達文化保存会蔵)



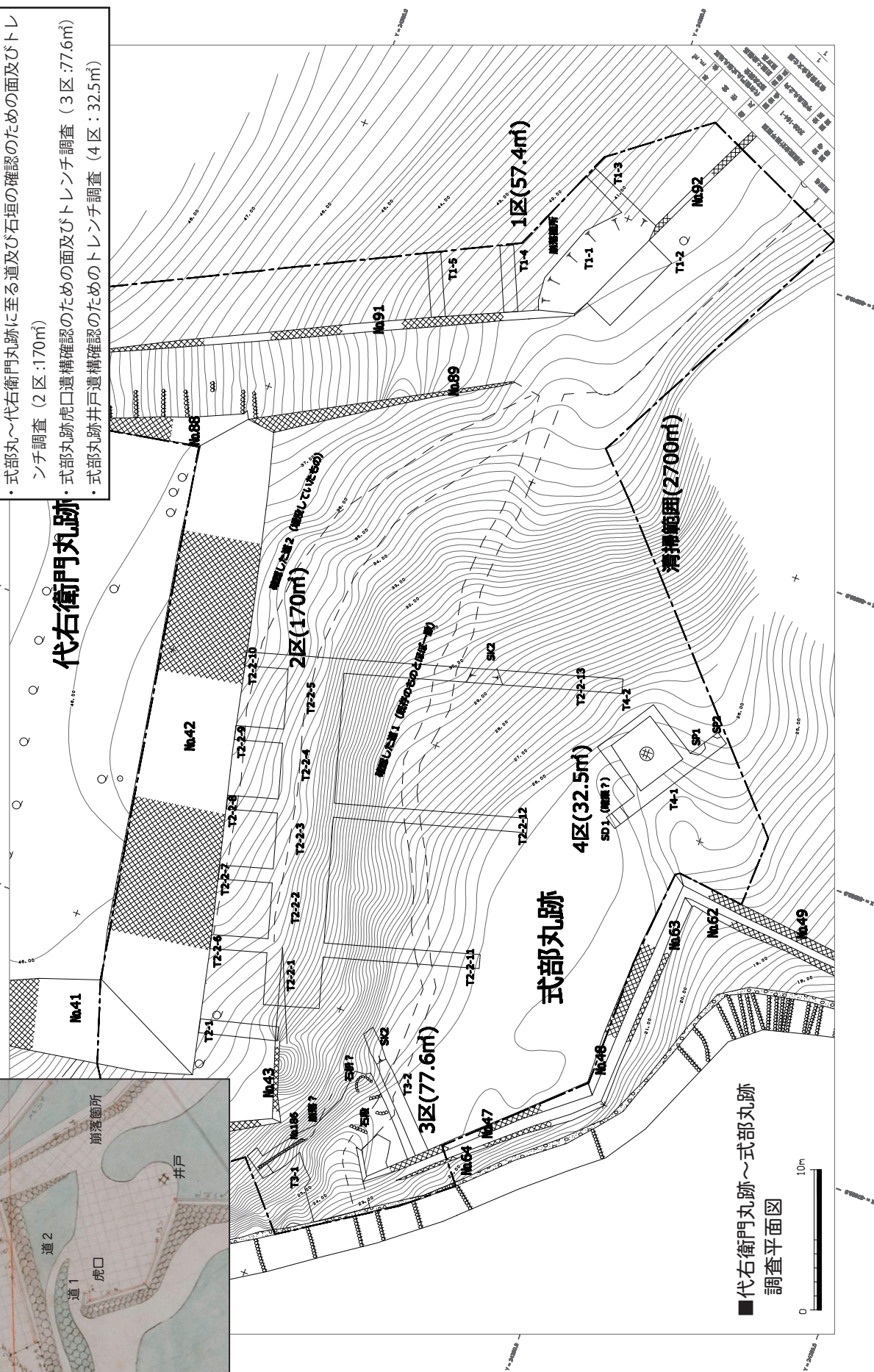
② 宇和島城下絵図 部分
承応3(1654)年頃(伊予史談会蔵)

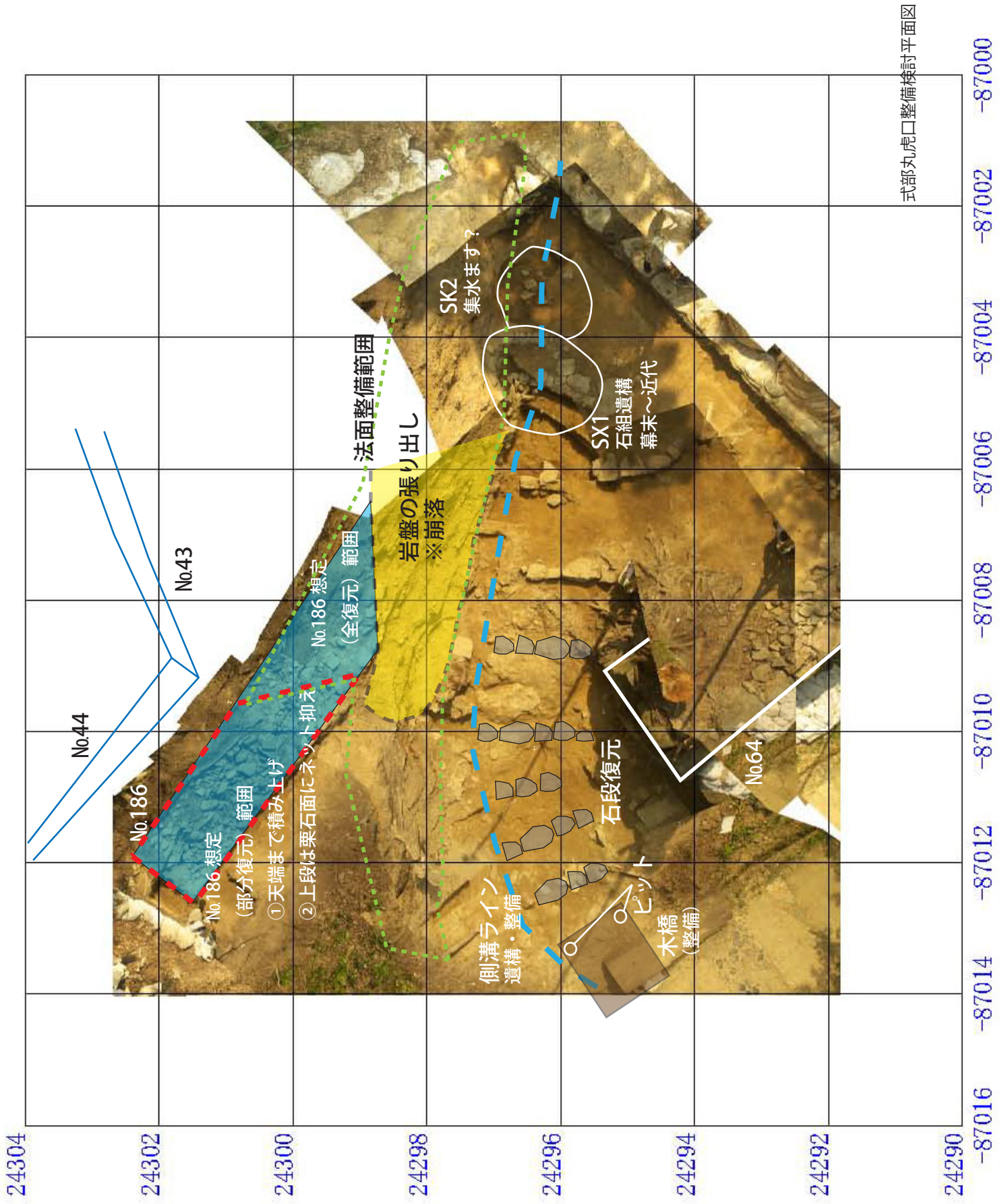


③ 宇和島御城下絵図 部分
元禄16(1703)年
(公益財団法人宇和島伊達文化保存会蔵)

事業対象範囲 (約 2700m²)

- ・石垣崩落箇所天端周辺の遺構及び基礎構造の確認のための面及びトレンチ調査（1区：57.4㎡）
- ・式部丸～代右衛門丸跡に至る道及び石垣の確認のための面及びトレンチ調査（2区：170㎡）
- ・式部丸跡虎口遺構確認のための面及びトレンチ調査（3区：77.6㎡）
- ・式部丸跡井戸遺構確認のためのトレンチ調査（4区：32.5㎡）

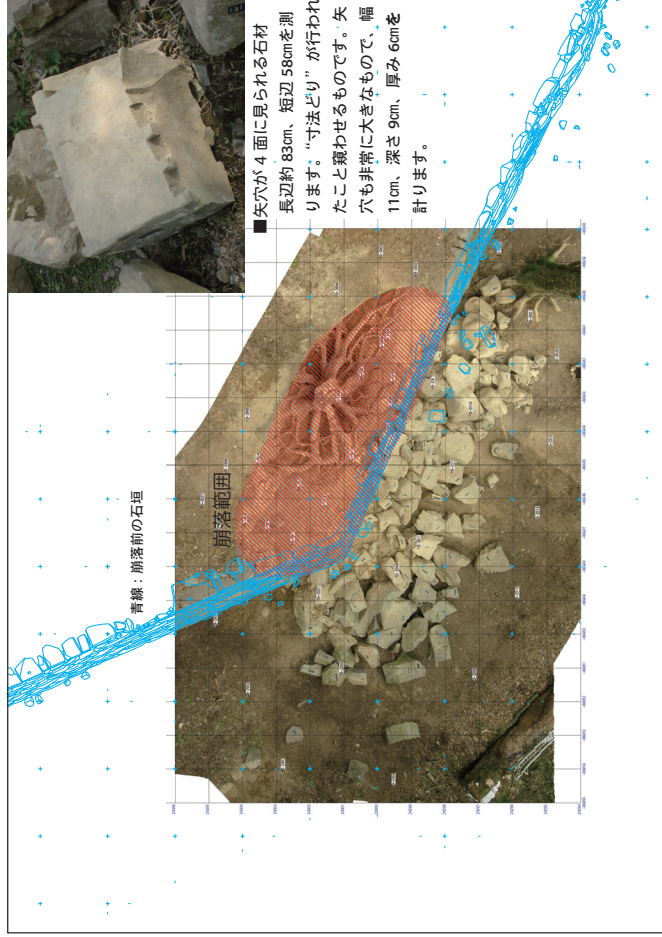




1区はH20年度から継続して調査を行っている箇所で、東側石垣の古式と新式が切り替わる鈍角を中心とした約40m²（立面積）が崩落しました。その崩落を発見したのは平成18年7月14日ですが、特に地震などがあったわけではなく、自然的な要因を考えるとすれば、梅雨時期の風雨と上面に大きく伸長したクス（幹周約2m、高さや約15m）の根方の影響はあったかと考えています。またかねてより石垣法面の前面への孕み出しが認められていた箇所で、石垣本体の構造的な問題もあったと想定しています。

今回の崩落現場では約150石の石材がありましたが、その同定調査で約9割は元の場所が特定できましたが、崩落の際に粉砕されてしまったものもあり、残り1割は特定できませんでした。また今回の同定調査において非常に大きな矢穴をもつ石材が複数個確認しており、今まで江戸初期と幕末の2時期を想定していましたが、江戸前期頃にも改修を受けている可能性があることが判明しました。また、裏込の栗石は非常に厚く、1m以上はあり、根石は現状で見えている最下段もので、岩盤を整形して直接据えられていることも判りました。

■ 崩落現場周辺の平面図及び写真図



3. 石垣上面（天端）のクスの根方

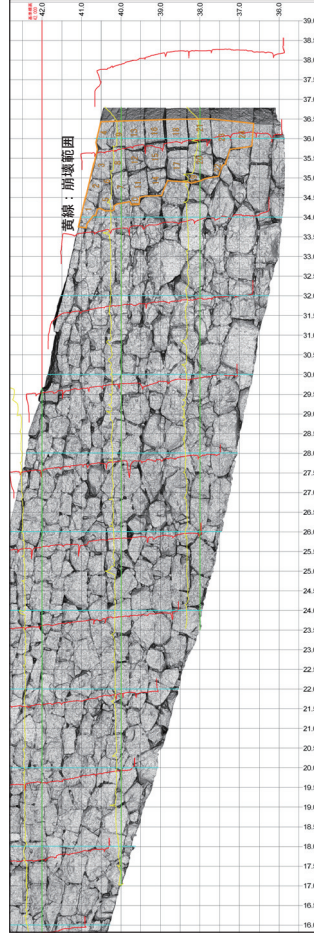


2. 崩落状況



4. 調査終了後の状況

■ 崩落現場周辺の石垣図1



■ 崩落現場周辺の石垣図2

